

# 集落地域における体育系大学生が行う交流に関するニーズ調査

○早田 剛<sup>\*1</sup>、野瀬 由佳<sup>\*2</sup>、藤田 依久子<sup>\*3</sup>、#野入 康介<sup>\*1</sup>、#有井 大芽<sup>#\*1</sup>、三浦 孝仁<sup>#\*1</sup>  
 (\*<sup>1</sup>環太平洋大学、\*<sup>2</sup>安田女子大学、\*<sup>3</sup>山陽学園大学)

## 【背景】

都市部への人口や経済活動の集中などによって住人の減少が続き、高齢者が多くを占める過疎状態になる地域は日本各地に点在し、村や集落の存続が危ぶまれている地域が多くある。地方の過疎化は、その地域に住む人の生活だけでなく、放置することのできない問題になっている。

その問題に対し、岡山県では「地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業」を行い、2021年度M地区の募集事業に早田ゼミが申請し採択された。M地区の人々が大学生に求めていることやSNS普及率や運動習慣等を調査することが今後の活動に繋がると考えられる。

## 【目的】

集落地域における大学生が行う交流事業に関するニーズ調査を行い、今後の実施方法を検討することとした。

## 【方法】

対象は、岡山県美咲町M地区の住民とした。

2021年10月、M地区コミュニティ協議会の協力により、小学校・中学校・地域全体に紙媒体・Google Formでのアンケートを配布した。

アンケートの初めに本研究の趣旨を文章にて説明し、同意を得た229名中222名の回答を解析した。解析対象者の性別は男性121名、女性100名、その他1名であった。年齢は10歳代：135名、20・30歳代：6名、40・50歳代：23名、60歳以上：58名であった。

## 【結果及び考察】

本研究の結果、スマホ保有率は69%であり、LINE利用率(69%)が最も高かった。総務省(2020)「通信利用動向調査」におけるスマホ保有率は2019年67.6%であり、ほぼ同等の結果となった。ICT総研(2022)「2022年度SNS利用動向に関する調査」では、ネットユーザーに占めるLINE利用率は79.5%、Twitterが55.9%であり、M地区はやや低い結果であった。このことからSNSでの発信の機会を設ける必要があると考察した。

地域な好きなイベントは、「祭り」が多かった反面、特になしも13件あった(図1)。大学生への

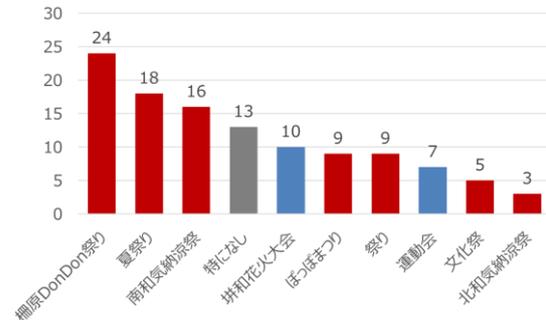


図1: 地域の好きなイベント

期待については、イベントへの参加・企画が多かったが、特になしや無回答も多かった。更に、大学生とスポーツ実施希望については51%であった。この地域には大学がないため、大学生と関わる機会が少ないことから、大学生に興味がない、イメージが湧かなかつたと考察した。

また週に1回も運動習慣がない人が53%を占めた。スポーツ庁(2021)「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、成人の週1回以上のスポーツ実施率は56.4%とほぼ同等であった。集落地域だからといって運動をしない割合に変化はなかった。このことから、ウォーキングのような簡単に取り入れられる運動から始めることが望ましいと考察した。

## 【結論】

本研究の結果を踏まえ、M地区住民に、まずは大学生やSNSと触れ合うこと、運動をしていない5割の人に運動する機会が必要と考察された。

この結果より、2021年11月に早田ゼミ主催で、Instagramによる発信を加えた、ウォーキングチャレンジ大会をイベント開催に繋がった。

(参照: Instagram #南和気ウォークチャレンジ)

## 【謝辞】

本研究を実施するにあたり、ご協力いただいた南和気コミュニティ協議会会長中村陽一氏をはじめ、その他協議会の皆様、環太平洋大学山本春斗氏に深く感謝致します。本研究は「岡山県集落研究・交流事業補助金」の助成を受けたものである。